

③旧・理化学研究所エリア

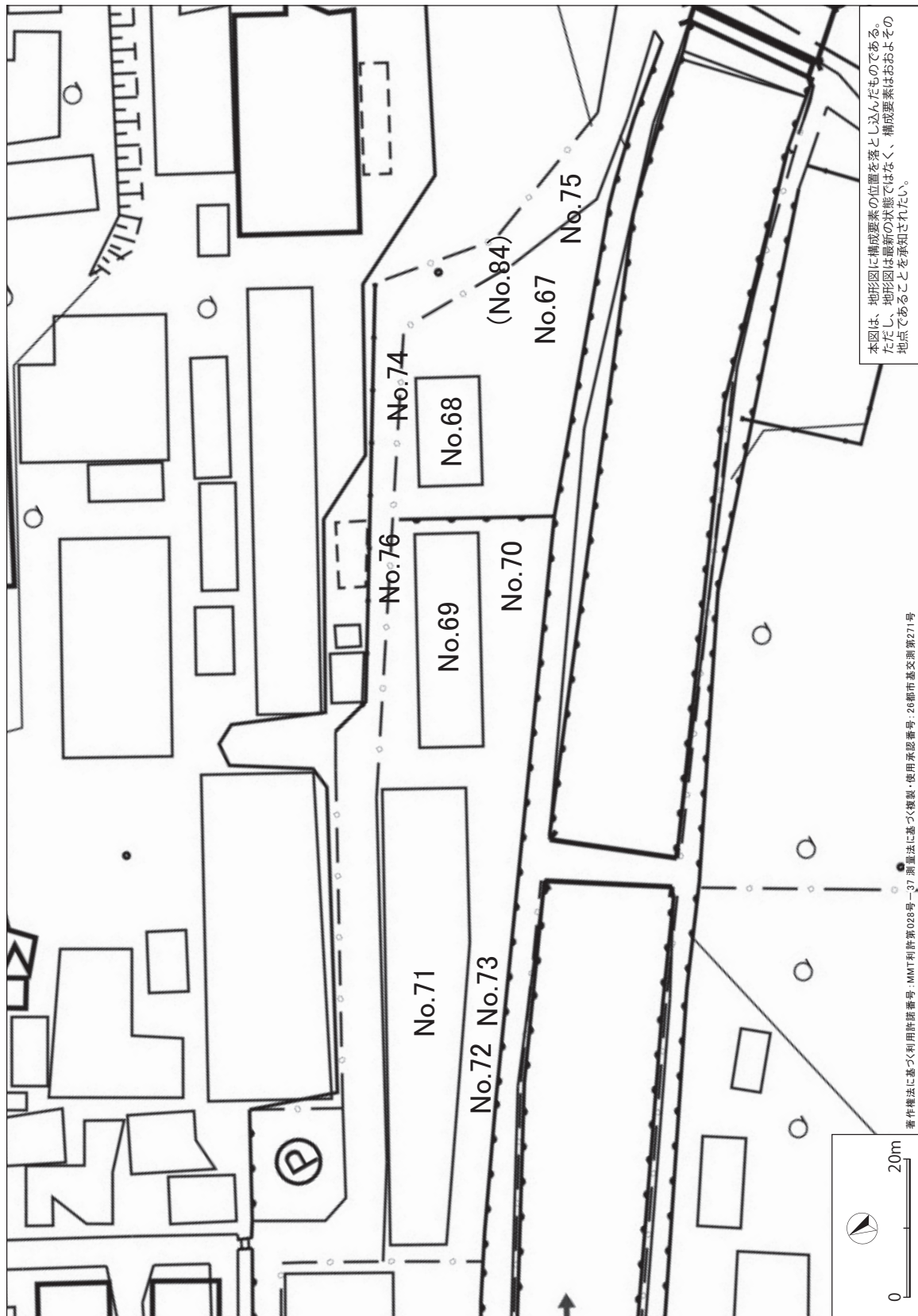


図 15：構成要素の位置図

No. 67 宿舎コンクリート基礎

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア西側に位置している。 ・戦後、理化学研究所時代に宿舎が設置されており、その基礎と考えられる。 ・現在は植物が繁茂しており、全体の姿は把握できないが、マイクロ加工棟周辺に確認できる。 ・一部鉄製の金具が表面に露出している。 ・戦前の図面では、現在の位置に建造物等は確認できない。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は不明である。
<p>写真</p>	

No. 68 マイクロ加工棟

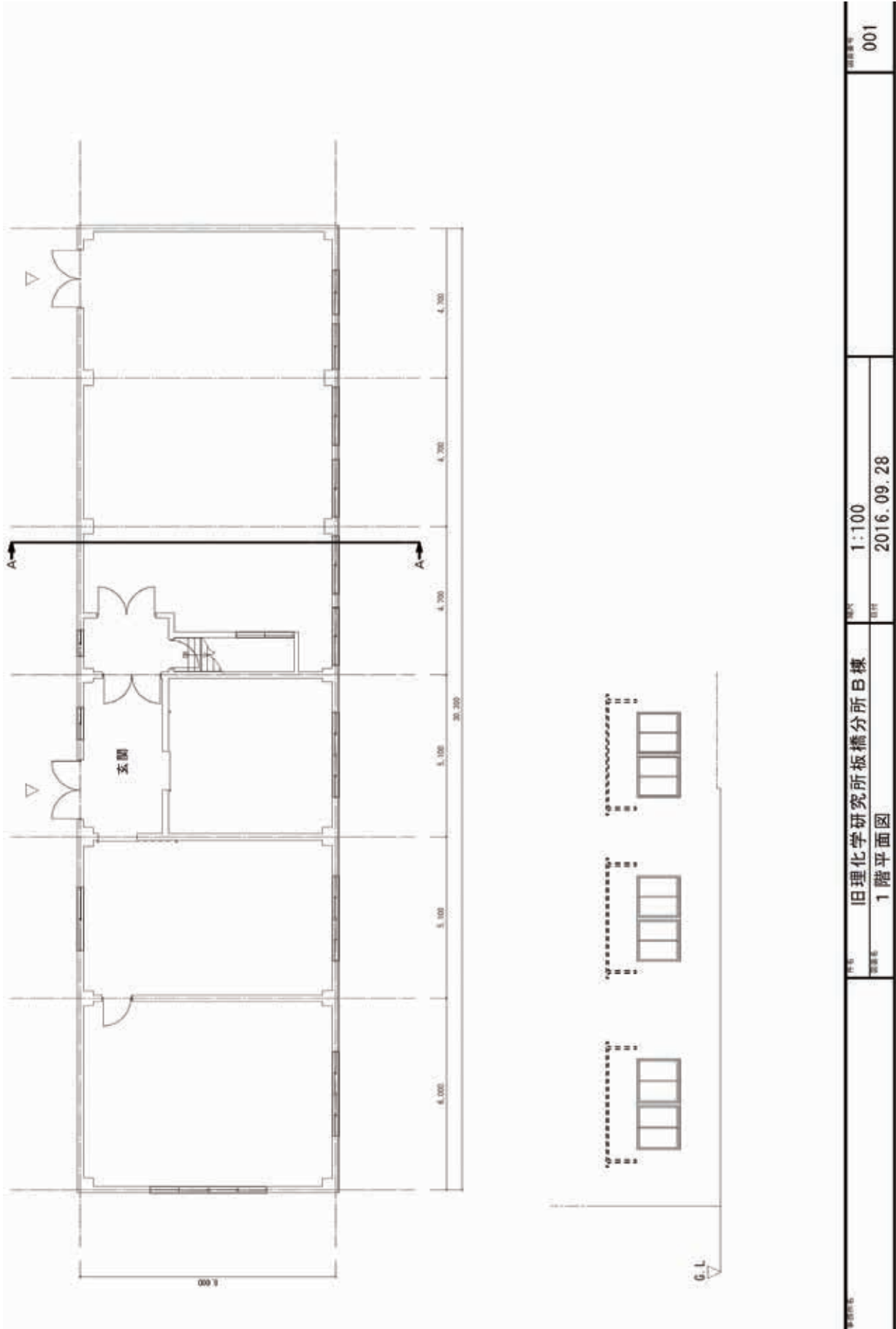
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧理化学研究所エリア西側に位置している。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 50 年に設置されたとされる。
<p>写真</p>	

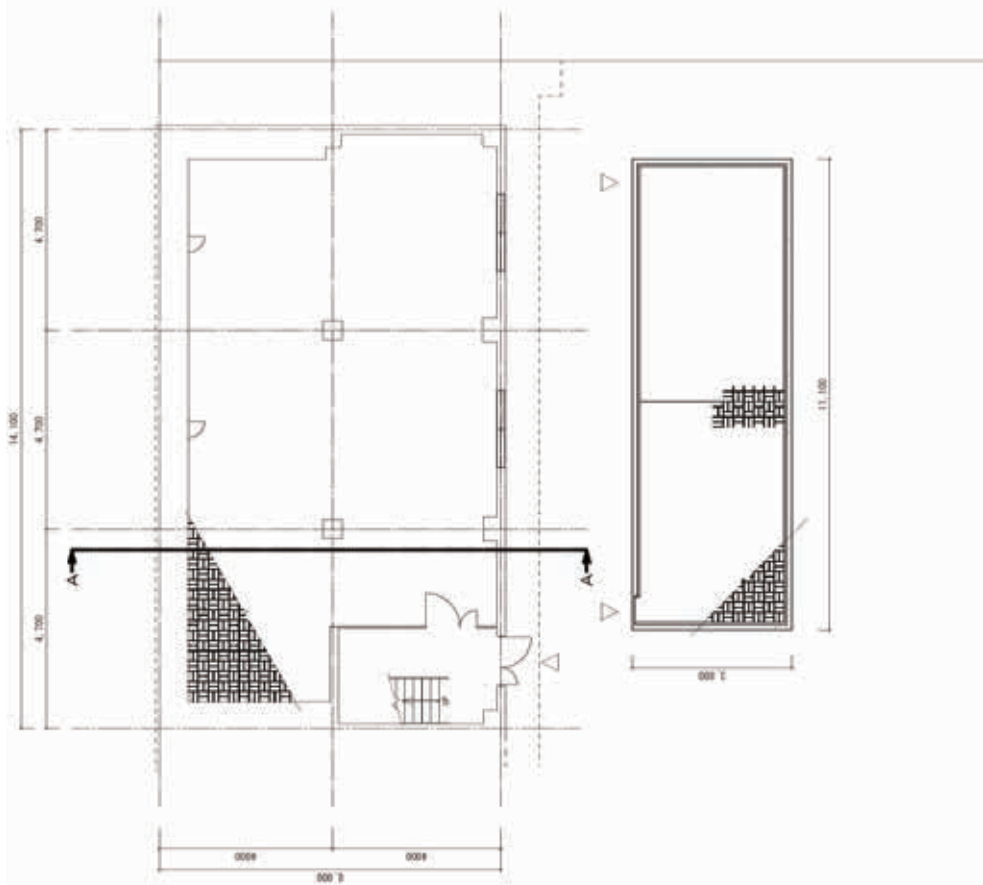
No. 69 爆薬理学試験室

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア中央部に位置している。 ・構造は鉄筋コンクリート造平屋建、地下一階建。 ・理化学研究所板橋分所のパンフレットによれば、近年は、X線棟(357棟)と称され、内部は「X線棟研究・実験室」、「研究室」(2室)、「セミナー室」として利用していた。 ・設置年代は財務省台帳では昭和16年とされるが、根拠は不明である。 ・昭和9年の図面には建物が確認できない一方で、昭和12年の図面には357号棟が描かれていることから、昭和9年から昭和12年の間に設置されたと推定される。 ・また「造兵廠昭和11年度設備に関する件」(『大日記乙輯昭和11年』所収、C01002136400)によると、昭和11年度の事業として「鉄筋「コンクリート」造平屋建」の「火工廠板橋火薬製造所敷地 爆薬理学試験室新築」が示されている。建物番号や建物の位置が示されていないため、この建物がすなわち現存する爆薬理学試験室であると同定することはできないが、叙上の建築推定期間と矛盾しない。 ・私道側(建物北側)には、ポリカ庇と舗装がなされているが、いずれも近年設置されたものと思われる。 ・私道側の壁には、庇が4ヶ所設置されている。現在西側2ヶ所は壁になっているが、これらも含めて、庇が残る部分は出入口だった可能性がある。火薬を扱う軍事施設は、各部屋を独立させる仕様が多いため、この建物も同様の仕様だったと考えられる。 ・建物南側にはバルコニーが設置されている。現在1階からバルコニー方向への出入口がないが、各部屋を独立させる仕様だったとすれば、従来は出入口があった可能性がある。 ・1階と地下1階は近年更新されたアルミサッシが設置されているが、通常生じる接続部分とのひび割れが確認されない。こうしたことから、柱と梁を残して、壁面全体を造り直している可能性がある。 ・地下1階は、天井が低く、石神井川に面して地面が意図的に掘り込まれている。南側に「仮置場」(No.625)が面していることから、爆薬理学試験室での実験に使用する荷物を一時的に置く施設だったと考えられる。 ・天井部分はすべて近年更新されたものと思われるが、一部穴が開いている部分があり、鉄骨トラス構造と思しき構造が確認できる。 ・現在、建物内部には理化学研究所時代に使用されていた実験装置や施設が残存している。 ・平成29年度に耐震診断調査を実施し、耐震補強が必要となる結果を得た。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・「造兵廠昭和11年度設備に関する件」(『大日記乙輯昭和11年』所収、C01002136400)によると、昭和11年度の事業として「火工廠板橋火薬製造所敷地 爆薬理学試験室新築」が挙げられ、「鉄筋「コンクリート」造平屋建」で、予算16,500円と記されている。 ・昭和12年「大日記 昭和12年度事業費工事追加実施の件」(防衛省防衛研究所所蔵)によれば、現在の位置に357号棟が描かれている。

写真







图名	旧理化学研究所板橋分所B棟	比例	1:100	图号	002
日期	B 1 階平面図	日期	2016.09.28		

No. 70 中性子線観測所土台

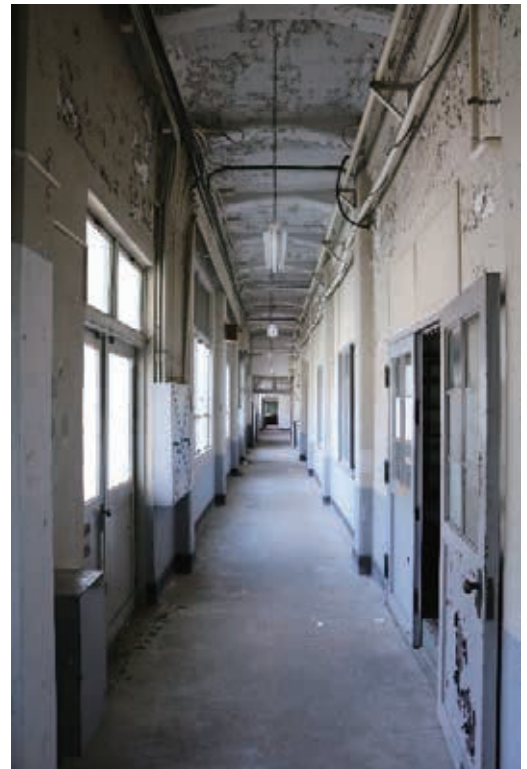
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 旧・理化学研究所エリア中央部、爆薬理学試験室の南側に位置する。・ 地形は一段低くなっているが、建物の建築時に削平したものではなく、元々掘り込まれた地形を利用したものと考えられる。
履歴	<ul style="list-style-type: none">・ 詳細は不明だが、昭和 40 年代に建築されたとされる。
写真	

No. 71 物理試験室

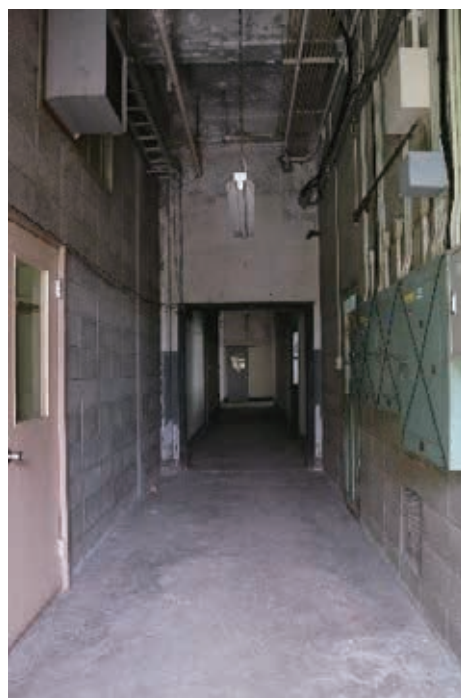
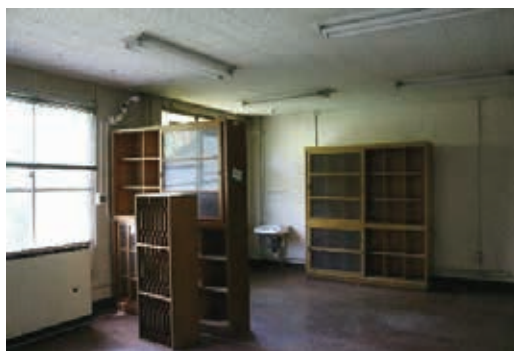
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリアの西側に位置している。 ・東西に3棟が連結しており、ここでは便宜的に東からC、D、E棟と称する。 ・構造はそれぞれ、C棟は鉄筋コンクリート造平屋建、D棟は煉瓦造平屋建、E棟は鉄筋コンクリート造平屋建である。 ・設置年代はそれぞれ、C棟が昭和13年、D棟が明治40年、E棟が昭和6年とされる。 ・理化学研究所板橋分所のパンフレットによれば、近年は本館(255号棟)と称され、内部は「1号室」、「2号室」、「3号室」、「4号室」、「9号室」、「10号室」、「資材室」、「研究室」、「会議室」、「機械場」、「事務室」、「準備室」、「電源室」として利用していた。 ・C棟には湯川秀樹、D棟は武井武、E棟は朝永振一郎が使用していたとされる部屋が残っている。またE棟には電算機、宇宙線観測機器が設置されていたとされる部屋も残る。 <p>＜各棟の構造＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C棟は中廊下型の配置をとる。 ・D棟は石神井川側も私道側も煉瓦壁体の外観を持つ。玄関部分の正面外壁は、荷重を受ける関係で腰壁と上部壁とで積み方を変えるため、壁厚が異なる。その繋ぎ部分は、モルタルで傾斜面を作る。玄関部分以外は、腰壁が煉瓦、上部壁が煉瓦にモルタルを塗り込むものと推測される。小屋組は鉄骨で組まれ、リベットが使用されていることから、関東大震災の復興時に架け替えられたものと考えられる。 ・E棟は北側に廊下、南側に各室が配置される。 ・D棟の床には、電気軌道のレールが確認されるが、私道側の煉瓦壁体によって遮られる。電気軌道が私道の方向に伸びていたとすれば、私道側の煉瓦壁体は後年の改変と考えることができる。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和9年「大日記 昭和9年度事業費工事一部計画変更実施の件」(防衛省防衛研究所蔵)によれば、現在の位置に255号棟の記載が見られるが、小規模な建物が描かれている。これは現在のD棟を指すと考えられる。 ・昭和12年「大日記 昭和12年度事業費工事追加実施の件」(防衛省防衛研究所蔵)によれば、現在の位置に長方形の255号棟が描かれている。建物の形状は、西方向に延長したようにも見え、E棟が連結されたものと考えられる。また爆薬理学試験室(357号棟)との間には距離がみられ、この段階ではC棟は建築されていないものと推測できる。 ・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、「物理試験室」と記載され、D・E棟部分に加えて、現在の位置にC棟部分が設置されていることがわかる。図面によれば、C・E棟部分が鉄筋コンクリート造、D棟部分が煉瓦造と記載されており、現在の構造と一致する。またD棟部分には2基の避雷針が設置されている。 ・D棟は設置以来、何度か名称を変えていることがわかっており、大正10年時点では第三光沢室、昭和9年時点では仮置場、昭和18年時点では物理試験室、昭和20年終戦時は物理試験室と称されていた。 ・平成29年度に耐震診断調査を実施し、C棟とD棟は耐震補強が必要との結果を得た。

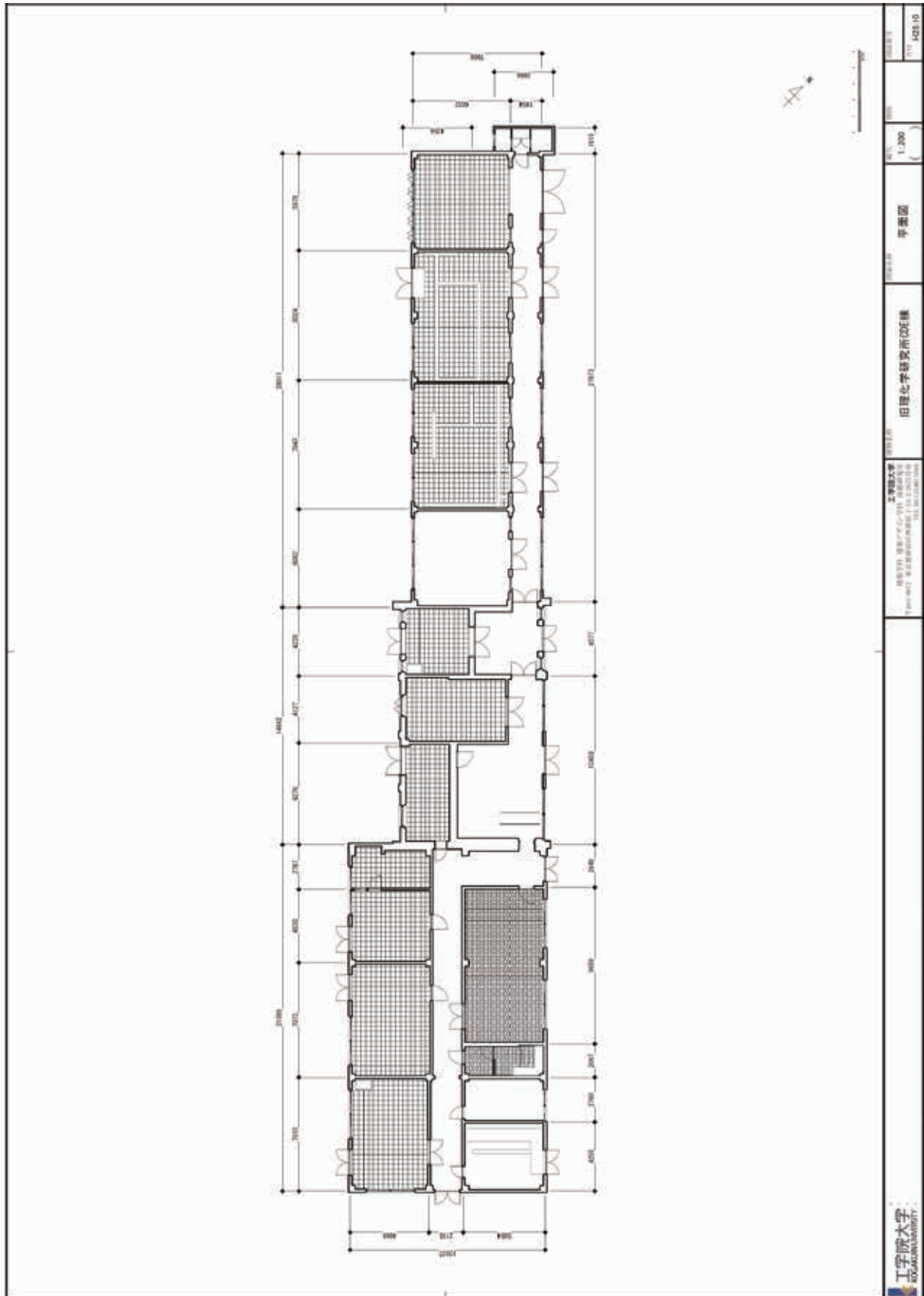


写真



写真





No. 72 爆破試験用コンクリートアンカー

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリアの西側、物理試験室の南側に位置し、井戸に隣接する。 ・円形のコンクリートアンカーを吊り上げ井戸に蓋をし、井戸内の水中で爆破実験を行っていた可能性がある。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・設置年代等の詳細は不明である。
写真	<div data-bbox="598 459 1115 804" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="742 813 986 846">平成 28 年 9 月撮影</p>

No. 73 井戸

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリアの西側、物理試験室の南側に位置し、爆破用コンクリートアンカーが隣接する。 ・円形のコンクリートアンカーを吊り上げ井戸に蓋をし、井戸内の水中で爆破実験を行っていた可能性がある。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・設置年代等の詳細は不明である。
写真	<div data-bbox="598 1341 1115 1686" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="742 1695 986 1729">平成 28 年 9 月撮影</p>

No. 74 電柱

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア北側の私道沿いに12本設置されている。 ・12本のうち6本には、電柱番号が記されており、「愛世支9」、「愛世支8」、「愛世支7」、「愛世支5」、「愛世支3」、「愛世支2」との表示がある。 ・12本のうち4本は板橋区の街灯としても機能しており、「板橋区街灯A3645」、「板橋区街灯A3646」、「板橋区街灯A3647」、「板橋区街灯A3649」との表示がある。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも近年設置されたものと思われる。
<p>写真</p>	

No. 75 看板

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア内に4種類の看板が設置されている。①理化学研究所板橋分所の立て看板、②理化学研究所板橋分所のプレート看板、③駐車禁止のプレート看板、④通行禁止のプレート看板の4点。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも近年設置されたものと思われる。
<p>写真</p>	

No. 76 金網柵・コンクリート塀

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア北側の私道沿いに設置されている。 ・金網柵は旧・理化学研究所エリア北側の私道沿いと南側の石神井川緑道沿いに、コンクリート塀は爆薬理学試験室正面部分にのみ設置されている。 ・コンクリート塀は平成13年には設置されていたことがわかる。 ・金網柵は、段階的に設置されており、爆薬理学試験室以東の部分は平成13年までに設置されている。また爆薬理学試験室正面部分から物理試験室方向に設置されたのは、平成27年から平成28年の間である。 ・爆薬理学試験室以東の金網柵は、平成13年までに設置されていたが、平成27年から平成28年の間に更新されたものと考えられる。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和9年「大日記 昭和9年度事業費工事一部計画変更実施の件」（防衛省防衛研究所所蔵）によれば、旧・理化学研究所エリア北側私道沿い「消火栓及止水弁（そすいえん）」および「自営水道」が設置されていることがわかる。 ・平成13年度までには、コンクリート塀と金網柵の一部が設置されていたことがわかる。 ・平成27年3月から平成28年10月までの間に、金網柵が新設および更新がなされている。
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>平成2年撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>平成13年撮影</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>平成13年撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>平成13年撮影</p> </div> </div>

No. 77 酸置場 (No. 449)

概要	・旧・理化学研究所エリア東側に位置していたが、現存しない。
履歴	・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、物理試験室の東側(現在のマイクロ加工棟付近)に設けられており、史料上確認できる初出である。
写真	

No. 78 仮置場 (No. 525)

概要	・旧・理化学研究所エリア南側に位置していたが、現存しない。
履歴	・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、爆薬理学試験室の南側に設けられており、史料上確認できる初出である。
写真	

No. 79 摩擦試験室 (No. 455)

概要	・旧・理化学研究所エリア南側に位置していたが、現存しない。
履歴	・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、物理試験室東端(C棟付近)の南側に設けられており、史料上確認できる初出である。
写真	

No. 80 射場 (No. 411)

概要	・旧・理化学研究所エリア西側に位置していたが、現存しない。
履歴	・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、物理試験室の南側に設けられており、史料上確認できる初出である。
写真	

No. 81 火薬試験室 (No. 439)

概要	・旧・理化学研究所エリア西側に位置していたが、現存しない。
履歴	・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、物理試験室西端(E棟付近)の南側に設けられており、史料上確認できる初出である。
写真	

No. 82 厠

概要	・旧・理化学研究所エリア西側に位置していたが、現存しない。
履歴	・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」(加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書)によれば、物理試験室西端(E棟付近)の南側に設けられており、史料上確認できる初出である。
写真	

No. 83 口廊下

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア西側に位置していたが、現存せず、現在は物理試験室に接続する便所および浴室が設置されている。 ・昭和18年図には「口廊下」と記されているが、料紙の欠損により判読できない。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」（加賀五四自治会（肥田一穂氏寄贈）文書）によれば、物理試験室と溜置室（No. 254、煉瓦造家、史跡指定地外で現存せず）との間に設けられている。 ・同位置には、現在物理試験室に接続する便所および浴室が設置されている。
写真	

No. 84 土塁

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・理化学研究所エリア東側に位置していたが、現存しない。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和9年「大日記 昭和9年度事業費工事一部計画変更実施の件」（防衛省防衛研究所所蔵）によれば、現在の旧・理化学研究所エリア東端部分に土塁が表記されており、史料上確認できる初出である。
写真	

④史跡指定地周辺エリア

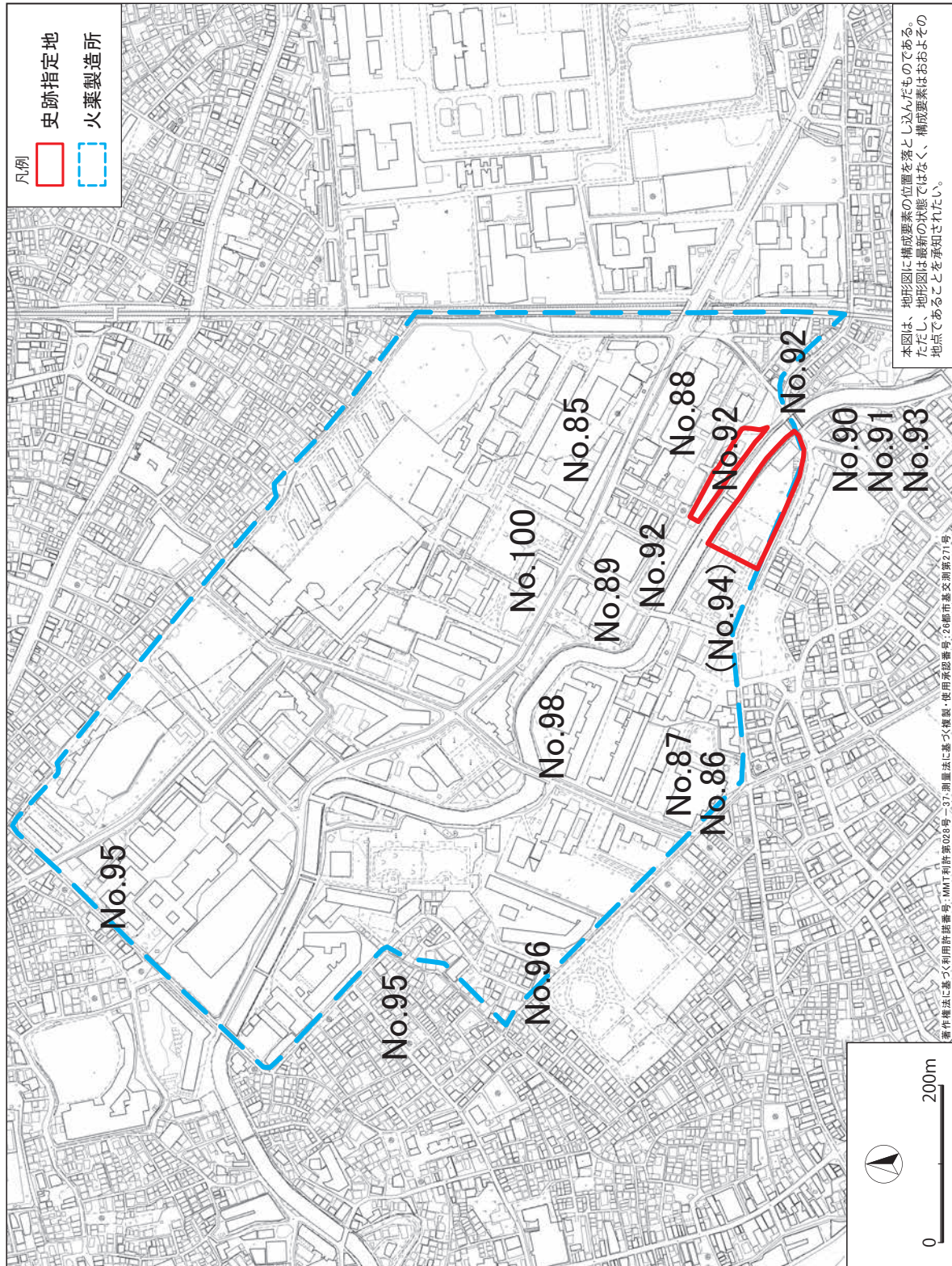


図 16 : 構成要素の位置図

No. 85 旧東京第二陸軍造兵廠建物群（東京家政大学構内）

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年度に板橋区登録有形文化財（建造物）となった。 ・所在地は板橋区加賀一丁目 18 番 1 号、所有者は学校法人渡辺学園（東京家政大学）。 ・煉瓦造平屋が 3 棟現存しており、建物は旧 220 号家（現板橋校舎 21 号棟）、旧 225 号家（現板橋校舎 22 号棟）、旧 261 号家（現板橋校舎 58 号棟）の 3 棟。 ・建築年代は、3 棟とも不明だが、大正 12 年の図面には 3 棟とも確認できるため、明治後期から大正期の間に建築されたものと考えられる。 ・渡辺学園は明治 14 年に渡辺辰五郎が開いた裁縫塾を淵源とし、戦前期には高等女学校や専門学校などを経営していたが、戦災により本郷周辺の校舎を失った。昭和 21 年に板橋火薬製造所の跡地に入居して、新制東京家政大学・同附属中高に改組し、現在に至る。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・史料から、以下の通り建物の使用変遷が明らかになっている。 ・旧 220 号家：大正 12 年第四溜置室→昭和 9 年溜置室→昭和 12 年溶剤回収室→昭和 18 年→溶剤回収室。 ・旧 225 号家：大正 12 年截断室→昭和 9 年予乾燥室→昭和 12 年記載なし→昭和 18 年→予乾燥室。 ・旧 261 号家：大正 12 年乾燥室→昭和 9 年乾燥室→昭和 12 年乾燥室→昭和 18 年→乾燥室。 ・昭和 21 年、渡辺学園が陸軍板橋火薬製造所の跡地へ入居し、新製の東京家政大学・同附属中高へ改組した。大学は建物 28 棟、高校は建物 4 棟、中学は 7 棟の使用を開始した。 ・昭和 38 年、国より土地と建物の払い下げを受けた。以後、順次新校舎の整備を進めている。 ・平成 19 年度に、現存する 3 棟の建物が板橋区の有形文化財に登録された。
写真	 <p style="text-align: center;">平成 26 年撮影</p>

写真




平成 26 年撮影

No. 86 圧磨機圧輪記念碑

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区立加賀西公園内（板橋区加賀一丁目 10 番）に位置している。 ・ 圧磨機として稼働していた時点では、現在の位置ではなく、加賀二丁目 15 番付近に位置していたと考えられる。 ・ 材質は圧輪部分がヨーロッパ産の大理石、土台はコンクリート製で表面は石張加工。 ・ 大正 11 年に、記念碑として設置された。 ・ 昭和 60 年ごろ、加賀西公園造成工事に合わせて、圧磨機圧輪記念碑の移設工事が実施され、台座の更新や圧輪を支えるコンクリート材など増補などが実施され、現在の形状となった。 ・ 圧輪を支える土台部分はモルタル塗装がなされるが、一部に割れが発生している。これは平成元年から平成 13 年の間に発生したものと考えられる。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治 9 年 8 月の火薬製造所開業より黒色火薬の製造に使用された。 ・ 明治 39 年 11 月、黒色火薬の製造廃止により、圧磨機圧輪の使用が停止された。 ・ 大正 11 年 3 月、陸軍省により記念碑として加工され、落成した。 ・ 昭和 60 年、産業考古学会の推薦産業遺産 5 号に認定された。 ・ 昭和 60 年ごろ、加賀西公園造成工事に合わせて、圧磨機圧輪記念碑の移設工事が実施された。 ・ 昭和 60 年度に、板橋区の記念物（史跡）に登録された。 ・ 平成 7 年度に板橋区の記念物（史跡）に指定された。
<p>写真</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p style="font-size: small; text-align: center;">輪磨機磨石を東岸より上機其自が門前左邸太郎</p> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p>・ 東京府立第九中学校三五会編『九中を中心としたる史跡名勝』（1932）掲載写真</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">昭和 60 年頃</p>

写真		
	平成元年 8 月か	平成 13 年 11 月
		

No. 87 明治 35 年爆発事故招魂之碑

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区立加賀西公園内（板橋区加賀一丁目 10 番）に位置している。 ・ 建立年代は、明治 36 年 7 月 24 日で、火災爆発事故によって亡くなった技師・職工の 1 周忌に合わせて建立された。 ・ 建立者は「板橋火薬製造所有志一同」。 ・ 材質は自然石（粘板岩）。 ・ この火災爆発事故は、明治 35 年 7 月 24 日に発生したもので、丙製薬所で出火した火災が隣接する建物に延焼し、消火活動の指揮を執った花土丈七技士をはじめ、火薬の搬出にあたった職工ら、合計 10 名が亡くなった。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治 36 年に設置された。
写真	




No. 88 公益財団法人愛世会愛誠病院・シルバーピア加賀

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、加賀一丁目3番地の愛誠病院・シルバーピア加賀の敷地内には、計6棟の歴史的建造物の存在が確認できている。 ・現存する建物は、煉瓦造の旧36号家（現第1病棟）、煉瓦造の旧35号家（現第2病棟）、煉瓦造で一部二階の旧168号家（現精神神経科外来棟）、煉瓦造の旧164号家（現本部事務棟および第3病棟）、煉瓦造の旧256号家（現作業療法）、鉄筋コンクリート造の旧438号家（現第11病棟）である。 ・このほか、その他遺構等が現存する可能性がある。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・旧36号家：大正10年図 第二硫酸庫（関東大震災によって半焼・半壊）→昭和9年図 建物が再建→昭和18年図 綿薬配合室。 ・旧35号家：大正10年図 倉庫（関東大震災によって半焼・半壊）→昭和9年図 駆水室。 ・旧168号家：大正10年図 第二洗断室（関東大震災によって破損）→昭和18年図 混合室。 ・旧164号家：大正10年図 洗滌（浄）室（関東大震災によって破損）→昭和18年図 物置。 ・旧256号家：大正10年図 篩分室（関東大震災によって破損）→昭和9年図 溜置室→昭和18年図 爆薬理学実験室。 ・旧438号家：昭和18年図 化学実験室。 ・昭和22年、愛歯技工補導会（現愛世会）が第二造兵廠時代の敷地と建屋の使用を開始した。
写真	

No. 89 公益財団法人愛世会 愛歯技工専門学校

概要	<ul style="list-style-type: none">・現在、加賀一丁目16番に所在する愛歯技工専門学校の敷地内に、2棟の歴史的建造物が所在している。・現存する建物は、煉瓦造の旧13号家と煉瓦造の旧140号家の2棟である。
履歴	<ul style="list-style-type: none">・旧13号家：大正10年 圧延再裁断室（関東大震災によって一部半焼・半壊）→昭和9年 仕上収函仮置場。・旧140号家：大正10年 第一気罐室（関東大震災によって破損）→昭和9年 試験室。
写真	

No. 90 石神井川

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石神井川は東京都小平市を水源に、北区堀船で隅田川に流入する、延長 25.2 km、流域面積 61.6 km²の一級河川。 ・近世には、石神井川は加賀藩下屋敷内を流れ、分水を引いて大池が造営され、池泉回遊式庭園の中心となっていた。なお池には千川用水の分水も利用されている。 ・加賀藩下屋敷では、石神井川の水流を利用し、流路に水車小屋が2ヶ所設置されていた。うち一ヶ所には、水車小屋と紙漉小屋が隣接しており、水力を動力源に紙漉きが行われていたことがわかる。 ・幕末期には、加賀藩が下屋敷内で大砲鋳造を行ったが、大砲の砲身に穴を穿つための動力源として、水車が利用されていた。 ・近代には、当地に火薬製造所が設置されるに際し、兵部省が水車の存在を重視していた。圧磨機圧輪は、現加賀二丁目 15 番地付近に設置されたとされており、石神井川の水流を動力源としていた。 ・また火薬製造所時代には、動力源としての利用のほか、機械類など重量物の搬入や火薬などの安全な搬入に利用された可能性が高い。 ・昭和 34 年以降、石神井川の改修工事が開始され、水害に備えた護岸が整備された。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 33 年 9 月 26 日の狩野川台風で、石神井川は区内で最も大きな被害をうけ、昭和 34 年以降、改修工事が開始されている。
<p>写真</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>


No. 91 桜並木

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石神井川沿いには桜並木が続き、区内には 1,000 本以上の桜が植樹されている。 ・「板橋十景」に選定されたほか、区民をはじめ広く親しまれている。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大正 12 年から昭和 15 年ごろに作成されたと考えられる「陸軍造兵廠火工廠絵はがき」には、「火工廠内桜並木」という絵葉書が収められていることから、火工廠の敷地内に桜並木があったことは想定されるが、その位置は明らかではない。また史跡指定地内に桜並木が存在していたことは、史料上確認できない。 ・平成 15 年、板橋区は「石神井川の桜並木」を「板橋十景」として選定した。
<p>写真</p>	<div style="text-align: center;">  <p>財団法人共栄会「陸軍造兵廠火工廠絵はがき」 (大正 12 年—昭和 15 年ごろ) ※ただし撮影場所は不明。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>

No. 92 橋（3基）

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石神井川エリアに3基設置されており、西から加賀橋、かがみどりばし、金沢橋である。 ・かがみどりばしのみ、車両の通行が不可である。
<p>履歴</p>	
<p>写真</p>	<div data-bbox="609 439 1126 781" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="347 882 865 1225" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="877 882 1394 1225" data-label="Image"> </div>

No. 93 石神井川緑道

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石神井川沿い両岸に緑道が整備されている。 ・ベンチ、緑化ブロック、街灯、モニュメント等が設置され、ウォーキングやランニングコースとしても利用されている。
<p>履歴</p>	
<p>写真</p>	

No. 94 水溜 (No. 513)

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旧・火薬製造所エリア西側の史跡指定地外に、2基存在していたが、いずれも現存しない。 ・財務省台帳の建屋番号は、No. 462とNo. 513である。 ・No. 462は、2016年当時テントの下にあり、形状は確認できなかった。No. 513は、コンクリート製長方形柵の形状であった。 ・2基とも、鉄製消火栓が設置されていた。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和18年「東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図」（加賀五四自治会（肥田一穂氏寄贈）文書）によれば、2基の存在が確認できる。 ・平成29年11月ごろ、史跡指定地外の私有地に位置するため、土壌汚染対策工事に際して撤去された。
写真	

No. 95 標柱

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸軍板橋火薬製造所時代の境界線周辺に点在し、少なくとも 8 基確認できる。 ・ 設置時期は不明である。 ・ 私有地に所在しているものもあり、保存状況は様々だが、表出するものあれば、舗装の下に埋もれるものも確認される。 ・ 刻印が確認できるものは 3 基あり、「陸軍用地」(2 基)、「陸軍省 [以下判読不可]」と記される。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置時期等、詳細は不明である。 ・ 平成 22 年に文化財係が調査した段階で把握していた石柱のうち、現段階では 2 基が確認できなくなっている。
<p>写真</p>	

No. 96 コンクリート壁および壁柱

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸軍板橋火薬製造所時代の境界線周辺に点在している。 ・ 設置時期は不明である。 ・ 現在、少なくともコンクリート壁は 1 基、壁柱は 2 基現存することを確認している。
<p>履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置時期等、詳細は不明である。
<p>写真</p>	

No. 97 土塁

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加賀一丁目 2 番付近に位置する。 ・ 541 号家（変電室）付近に位置し、現在はクリーニング店が使用している。 ・ 史料上土塁が設置されている様子は確認できないが、自然地形で盛り上がりが見られ、この部分が該当する。旧・理化学研究所エリア東端に位置していた土塁につながっていたものと考えられる。
<p>履歴</p>	
<p>写真</p>	

No. 98 レンガパーク

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀一丁目緑橋緑地内に位置している。 ・戦後、株式会社釜屋の工場として使用されていた大正期の煉瓦造平屋建の建物の一部をモニュメントとして設置したものである。 ・マンションが建設される以前は、陸軍板橋火薬製造所時代に設置された煉瓦造平屋建（大正期）の建物が所在しており、戦後、株式会社釜屋が工場として利用していた。
履歴	
写真	 <p data-bbox="758 891 997 922">平成 29 年 9 月撮影</p>

No. 99 陸軍工科学学校跡

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現・加賀公園エリアの王子新道を挟んで南側、現板橋区立板橋第五中学校一帯（板橋四丁目 49-3）に位置していた。
履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・明治 41 年 9 月に、砲兵工科学学校の分校として板橋分校が設けられ、砲兵工科学学校の火工学生が小石川本校から板橋分校へ移る。 ・大正 9 年に、陸軍工科学学校板橋分校と改称している。 ・昭和 15 年 7 月に、小石川の本校とともに陸軍兵器学校と改称され、神奈川県高座郡大野村淵野辺（現在の神奈川県相模原市）に移転した。 ・その後、終戦時まで建物と施設は東京第一陸軍造兵廠の板橋宿舎として使用された。 ・終戦から昭和 30 年 4 月までは、GHQ の情報機関 CIC（対敵諜報隊）が設置されていた。 ・昭和 30 年 4 月に、板橋区立板橋第五中学校が開校した。
写真	

No. 100 東京都水道局・区立公園敷地

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、加賀一丁目 17 番には、東京都水道局板橋給水所と区立加賀一丁目公園庭球場が、加賀二丁目 13 番には東京都水道局板橋給水所第二給水所と区立加賀二丁目公園が設置されている。 ・東京第二陸軍造兵廠時代は、加賀一丁目 17 番には濾過池・浄水池、加賀二丁目 13 番には沈殿池が設置されていた。 ・コンクリート構造物や土塁と思しき遺構が確認できるが、詳細は不明である。
履歴	
写真	

4. 史跡指定地の状況

(1) 土地の所有関係

平成 30 年 3 月時点で、史跡指定地は国、都、板橋区土地開発公社が所有している。このうち板橋区土地開発公社が所有する土地については、令和 3 年度までに板橋区が取得する予定であり、現在は区と板橋区土地開発公社の協定により、板橋区が管理している。

以下に平成 30 年 3 月時点での土地の所有者と公有化状況を示した表を掲載する。

表 9：平成 30 年 3 月時点での土地の所有者と土地取得状況

場 所	所 有	面積 (㎡)	地 番	比 率	備 考
旧野口 研究所跡 地	板橋区 土地開 発公社	4,430.10 ㎡	板橋区加賀一丁目 3356 番 177 及び 178	35.29%	平成 30 年 2 月板橋区土地開 発公社が取得し、令和 3 年度 に区が買戻す予定である。
旧理化学 研究所跡 地	板橋区 土地開 発公社	2,858.99 ㎡	板橋区加賀一丁目 3356 番 121	22.78%	平成 29 年 4 月に板橋区土地 開発公社が取得し、令和 3 年 度に区が買戻す予定である。
加賀公園	国	4,999.32 ㎡	板橋区加賀一丁目 3356 番 149	39.83%	区立加賀公園として、国から 占用許可、都から使用許可を 得ている。
	東京都	264.71 ㎡	板橋区加賀一丁目 3356 番 148	2.10%	
	合計	12,553.12 ㎡		100.00%	

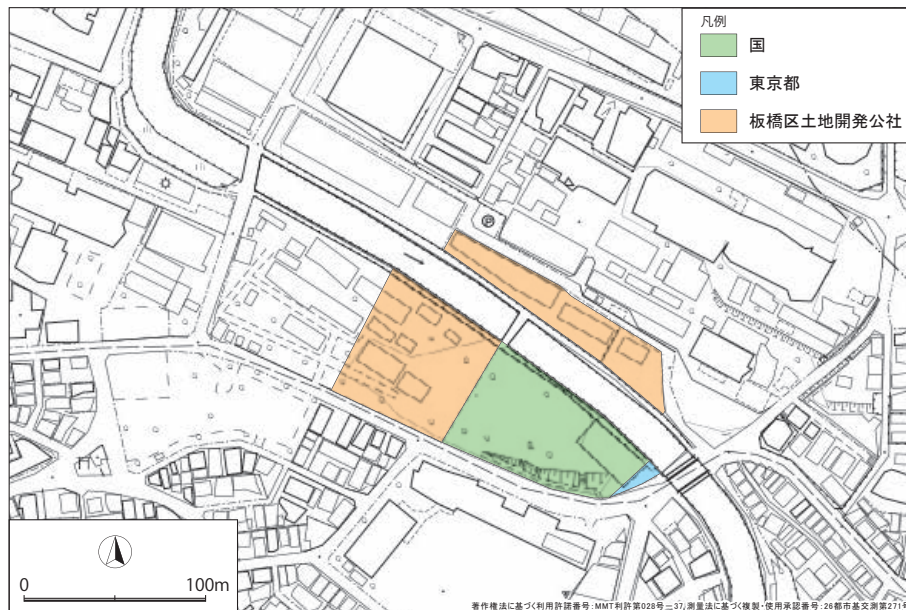


図 17：土地所有の状況

(2) 管理団体

平成 31 年 3 月時点で、旧野口研究所跡地と旧理化学研究所跡地は板橋区土地開発公社が所有し、加賀公園は国と東京都が所有している。また上記 3 ヶ所はいずれも板橋区が管理している（前頁掲載表を参照）。

なお文化財保護法第 113 条 1 項に規定される「管理団体」（※）については、現在板橋区はその指定を受けていないが、適切な史跡の保存・活用を可能にする組織体制を構築するために、指定に向けた意見具申等を検討する。開園後の管理については、「第 9 章 運営・体制」において、その方向性を提示する。

※「管理団体」とは、文化庁長官が地方公共団体等を指定し、史跡名勝天然記念物所有者に代わって保存のために必要な管理及び復旧などを行わせる制度である。詳細は「資料編 5」に条文を記載した。

(3) 旧野口研究所跡地の土地所有に関する経緯

平成 26 年まで野口研究所が研究施設として利用していた敷地は、板橋区加賀一丁目 8 番地（東側、約 10,470 m²）と 9 番地（西側、約 3,237 m²）、合計約 13,707 m²であった。なお、本計画における旧・火薬製造所エリアは、加賀一丁目 8 番地の東側にあたる。

平成 26 年 6 月、野口研究所によって研究所敷地の開発計画が明らかにされたことにより、板橋区は近代化遺産等の文化財的評価に基づき、当時の土地所有者である財務省と借地権者の野口研究所に対して、当該地一帯の譲渡を申し出た。しかし、この時点で野口研究所と第三者譲渡者である都内の開発事業者との間で売買等の計画が進

行しており、板橋区が土地譲渡を受けられる状況ではなかった。

これにより、旧野口研究所敷地内に所在する昭和20年以前の建造物・遺構群の現状を把握するための現地調査を実施する必要性が生じた。平成26年11月、日本を代表する建築史を中心とした近代化遺産、産業史、爆破構造物体研究、鉄砲火薬史及び産業考古学などを専門とする研究者を中心に「旧東京第二陸軍造兵廠内火薬研究所等近代化遺産群調査団」を組織し、分野横断的な総合調査を実施した。この調査成果は、平成28年3月に『旧東京第二陸軍造兵廠火薬研究所 近代化遺産群調査報告書』として刊行した。

平成27年3月、旧野口研究所敷地の所有権がマンション建設を計画する開発事業者第三者譲渡されたため、これ以降土地譲渡に向けた交渉は、板橋区と開発事業者との間で進めることになった。なお加賀一丁目9番地の部分については、野口研究所の新施設が建設されることが決定された。

その後も板橋区と開発事業者は、遺構の保存に関する交渉を進めていたが、マンション建設を計画していた敷地全体の土地譲渡を受けることは難しく、平成29年1月、板橋区は同敷地のうち東側約4,300㎡を取得することで開発事業者と合意に至った。その後平成29年度土地評価審議会を経て、板橋区土地開発公社により同地の公有化が完了した。

(4) 平成26年調査時からの変更について

平成26年に実施した調査では、旧野口研究所跡地の全域(151頁掲載図18参照)を保護対象としていたが、前述の通り保存できたのは、加賀一丁目8の東側であり、旧野口研究所(加賀一丁目8)の約42.3%である(151頁掲載図19参照)。板橋区が取得できた旧野口研究所跡地の東側(加賀一丁目8東側)には、発射場跡や加温貯蔵室、燃焼実験室など火薬製造の一連の工程を示す遺構が現存している。

一方で、保存することができなかった敷地内(加賀一丁目8西側および加賀一丁目9)には、火薬研究所、爆薬製造実験室、耐熱試験室といった建造物が存在し、また明治期に試射試験を行っていた砲架の遺構が埋蔵すると想定されていた。このため、板橋区は所有者である開発事業者の協力を得ながら、試掘調査と爆薬製造実験室の曳家による保存を実施した。

まず試掘調査は、平成28年に板橋区が実施し、時間的な制限もあり調査目的のひとつであった明治期の砲架遺構を確認するに至らなかったが、旧建物の基礎や土塁跡を検出するなど、一定の成果を得ることができた。この試掘調査の結果については、『陸軍板橋火薬製造所跡調査報告書』(2017)に詳述している。

次に爆薬製造実験室については、平成29年に曳家工事を実施している。爆薬製造実験室とは、80～81頁に既述した通り、爆薬の製造実験の機能を有していたと考え

られる重要な施設で、指定地内に残る燃焼実験室、発射場、加温貯蔵室などの遺構・歴史的建造物と関連づけることで、製造、実験、保管といった火薬の製造における一連の工程を示すことが可能である重要な建造物である。よって、指定地外に位置していた爆薬製造実験室のうち、建物の主要部分をなす「爆薬製造棟」を含む建物西側の部分を切断し、指定地内に曳家して保存する方法がとられ、平成 29 年度に施工された。なお曳家工事については、前述の調査団による調査報告書である『旧東京第二陸軍造兵廠火薬研究所近代化遺産群調査報告書』（2016）においても、工事を実施して保存することでその機能を示すことができる旨が記載されている。

また、平成 28 年度に土地所有者であった開発事業者が行った土壌汚染対策調査の結果では、戦前の銃砲弾試射や火薬製造の過程で発生した可能性がある鉛と水銀の汚染が認められた。敷地の公有化にあたっては、開発事業者が土壌汚染対策工事を東京都ならびに区と協議を重ねながら完了することが、板橋区としての条件であったため、開発事業者が土壌汚染対策法等の法令に基づく対策工事を完了させた上で、平成 29 年度、板橋区土地開発公社が土地を取得した。

開発事業者によって施工された土壌対策工事は、マンション開発計画との関係から時間的な制限があったが、敷地に残る文化財的価値を尊重し、板橋区と遺構の保存に関する協議を行いながら進められた。なお土壌汚染対策工事の実施については、国史跡指定の意見具申の中にも「なお、野口研究所敷地内には（中略）水銀・鉛等の土壌汚染が認められる。今後は汚染対策を実施した後、区へ譲渡するという段取りである」と記載している。

今後の保存整備事業においては、史跡として保護することができた指定地部分について、十分な調査を実施し、まだ明らかになっていない点も残る火薬製造所の全容把握に努めていく。

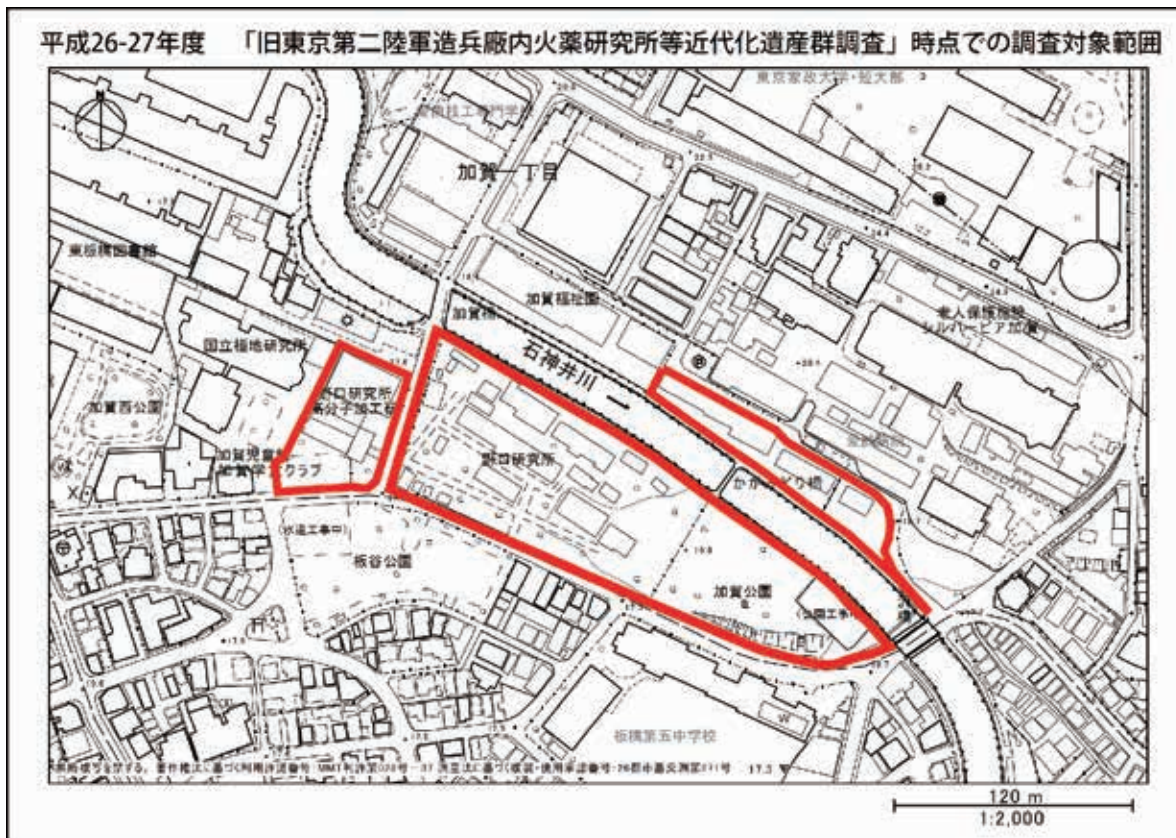


図18：平成26・27年度 調査対象範囲



図19：平成29年10月 指定範囲

